

2016年(平成28年)

10月12日

第417号 (毎週水曜日発行)

Elderly Press Newspaper
エルダリープレス ニュースペーパー

新しい住まいの形 コミュニティづくり

～日本版CCRCを考える～



1948年岩手県花巻市生まれ。コボラティブハウスや有料老人ホームづくりを経て、2006年コミュニケーションネット代表取締役に就任。自立型高齢者住宅を中心とした団地・過疎地再生事業に携わり、現在は地方創生の最前線に立つ。主な著書に『コミュニケーションネット』が日本を変える』(彩流社)。

(株)コミュニケーションネット 高橋英與 (たかはし・ひでよ)

第15回 地域づくりの難しさと面白さ

私たちが地域づくりに取り組んでいる自治体のなかに、商店街の再生という課題を抱えたところがあります。今後、経済成長が見込めない地方においては、売り上げを伸ばすことよりも、収入が少なくても継続できる仕組みをつくるべきだと私は考えます。そもそも店舗が高齢化し、店をとりあげず開けているものの儲けようという意識は薄く、営業しているのかしないのかわからないような状態や、廃業しても店舗と自宅が一緒なの

でシャッターを下ろして

そのままにして建物

は少なくありません。

では、どうするか。私

が考えたのは商店街全体

をデイサービスとみなす

ということでした。リハ

ビリ、マッサージ、レク

リエーション、プール、

図書館、ミニシアター、

麻雀、食堂など、各店舗

がそれぞれの役割を担

い、周辺に住む高齢者が

日がな一日、そこで過ご

せるように。

そうすると次のような

メリットが生まれます。

①高齢者の住まいは眠ることが中心なので、施設に入らずに済み、自宅で過ごすことが可能になります。②自治体は新たな高齢者向けの福祉施設を建

てなくてよい、③それ

でも深刻な問題です。そ

れを解決するにはまち全

てをひとつの学校とみな

してみる。すなわち地域

で子育てすることを考え

るので。授業は学校で

先生にやつてもらうにし

ても、運動会や学芸会は

がる、⑤商店街の経営者

にやりがいが生まれ、自

分にとつてのケアの安心

も得られる、など。

地方創生事業においてあるまちを「ひとつ

の〇〇とみなす」といは

問題解決の糸口を見つけ

ることにつながるのでは

ないでしょうか。たとえ

ば少子化で小中学校が廃

校の危機に面していると

が指導をする、ファミリ

ーサポートでボランティ

アが子どもを預かるな

ど、学校の機能をまち全

体に広げていくことで、

住民も生きがいを見つけ

られる。一挙両得です。